

熊本県の教育情報化の取組について

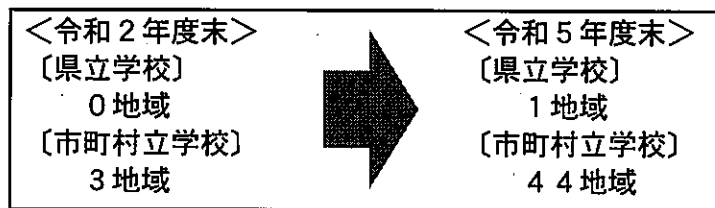
～熊本県教育情報化推進基本方針を策定しました～

1 基本方針の策定

文部科学省が進めるGIGAスクール構想で、全国において教育のICT化が進む中、「ICT教育日本一」を目指す本県教育情報化の取組の方向性を示すため、令和3年3月に「熊本県教育情報化推進基本方針」を策定。

2 目標

「日本教育工学協会」による「学校情報化認定制度」を客観的な指標として、令和5年度までに県及び44市町村の全団体が先進地域認定を取得することを目指す。



3 基本的な考え方

(1) 教育情報化を進める4つの取組方針

次の4つの項目に沿って取組方針を定め、各学校での教育情報化を進めていく。

- ・「情報活用能力の育成」
：全ての児童生徒が、情報活用能力と情報モラルを体系的に身に付ける
- ・「教科等の指導におけるICT活用」
：ICTを活用し、「分かる・できる・学び合う」授業を実現する
- ・「校務の情報化」
：業務の効率化を図り、教員の授業準備や児童生徒と向き合う時間を確保する
- ・「情報化推進体制等の整備」
：教育情報化の推進体制を整備し、学校の全体計画に情報化を位置づける

(2) 教育情報化を進める県教委の2つの支援策

県教育委員会では、これまでの研修等の取組に加え、児童生徒のICTの活用度合い等を指数化した「KI（くまもとICT）3つのチャレンジ」と、教員のICT活用指導力の向上を図る「熊本県ICT活用推進研修パッケージ」を新たに展開し、県内全体の底上げを行う。

以上

令和の日本型学校教育の構築

全ての子供たちの可能性を
引き出す教育の実現

個別最適な学び

協働的な学び

ICT活用は必要不可欠

- これまでの教育実践と組み合わせ
- 様々な課題解決
- 教育の質の向上
- 健康面等児童生徒への影響に留意

Society5.0時代にふさわしい学校の実現

3種類（3OS）の比較

学習者用端末



マイクロソフト
ウィンドウズ



グーグル
クロームブック



アップル
アイパッド

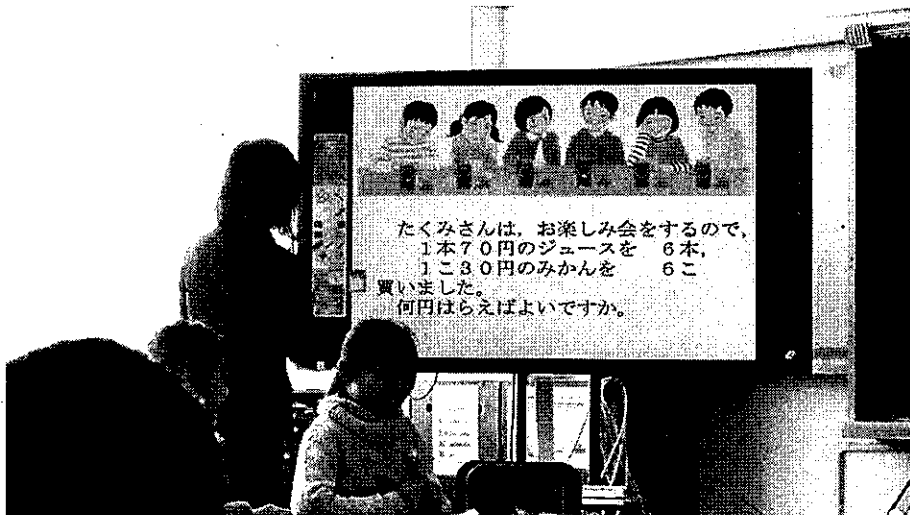
【共通仕様】

カメラ機能 タッチパネル キーボード付き など

基本的な機能は同じ

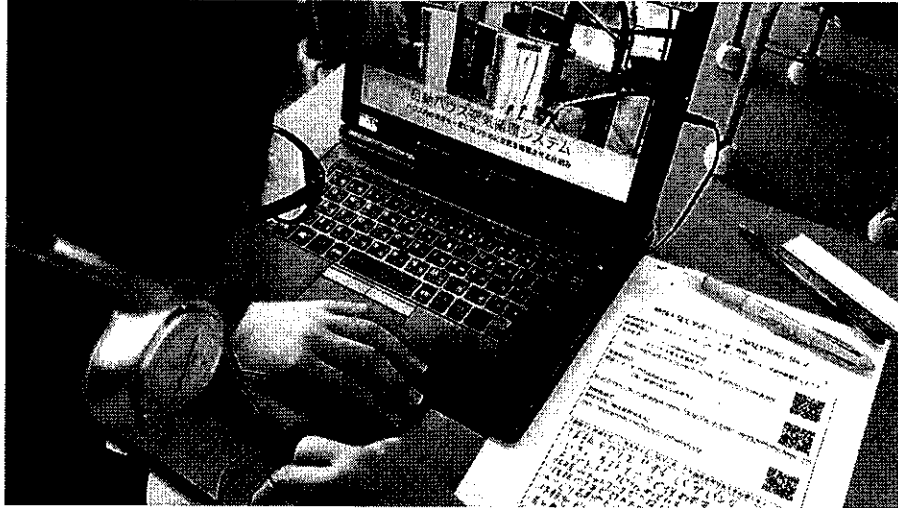
県内の事例より

ICTを活用した学習場面 一斉学習



大きく示して分かりやすく説明する

ICTを活用した学習場面 個別学習



教科書・資料集と併用し、動画でくわしく調べる

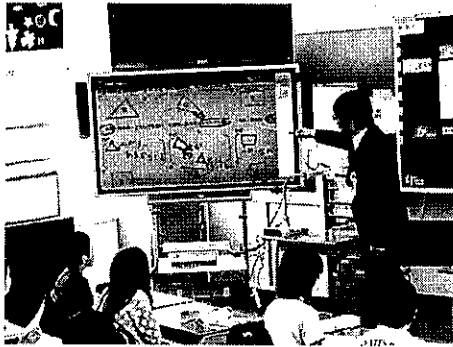
ICTを活用した学習場面 協働学習



様々なパターンでの学び合い（先生・友達・遠隔）

1人1台端末がもたらす変化（一斉学習）

これまで



興味・関心・意欲は向上

これから

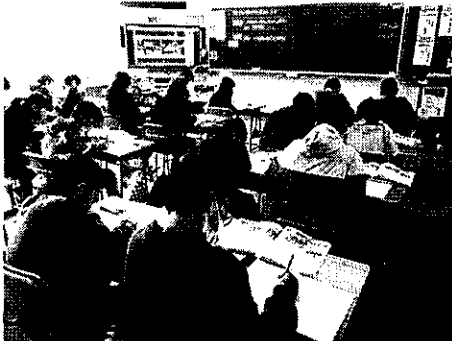


授業中でも一人一人の反応を把握

子供たち一人一人の反応を踏まえた、
双方向型の一斉授業が可能に

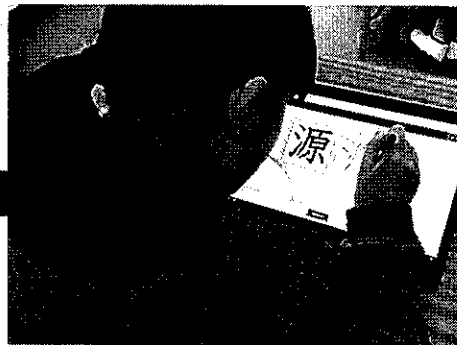
1人1台端末端末がもたらす変化（個別学習）

これまで



全員が同時に同じ内容を学習

これから



同時に別々の内容を学習
個人の学習履歴を記録

一人一人の教育的ニーズや
学習状況に応じた個別学習が可能に

1人1台端末がもたらす変化（協働学習）

これまで



意見発表者が限られる

これから



お互いの考えをすぐに共有
活発な意見交換

各自の考えを即時に共有し、
多様な意見にも即時に触れられる

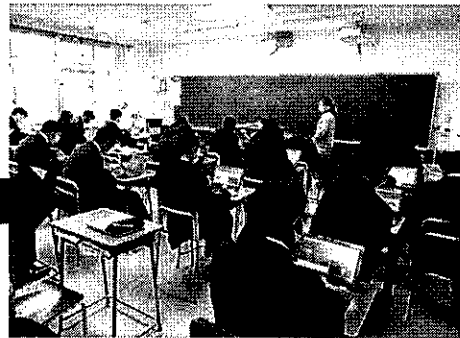
あらゆる教科で端末を活用

これまで



パソコン教室で時々使う

これから



教室で日常的に使いこなす

端末に触れる機会の増加 → 情報活用能力の育成

家庭への持ち帰り学習



「文房具」としてどこでも使う

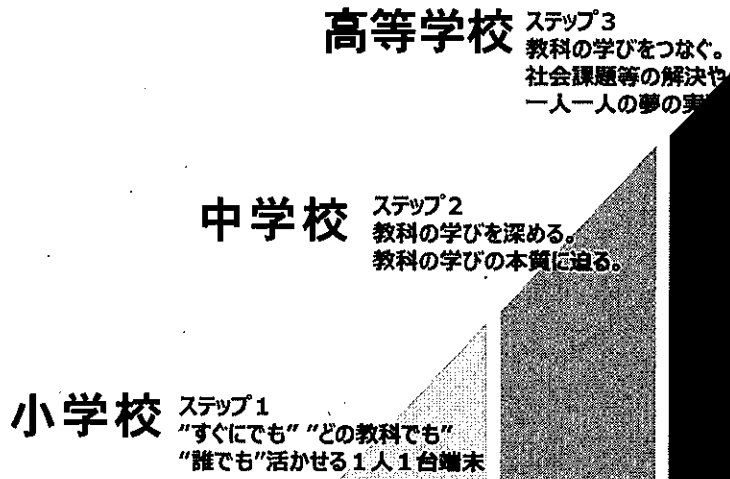
プログラミング学習



プログラミング的思考*（論理的思考力等）を高める

*目的を達成するために物事を順序立てて考え、結論を導き出していき、それを計画的に実行する考え方など

学びの変容イメージ



段階的な活用イメージ (小学校)



“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”

段階的な活用イメージ（中学校）

考えを表現する



他校とつなぐ



データを収集



教科の学びを深める 教科の学びの本質に迫る

段階的な活用イメージ（高等学校）

クラウド活用



社会問題を考える

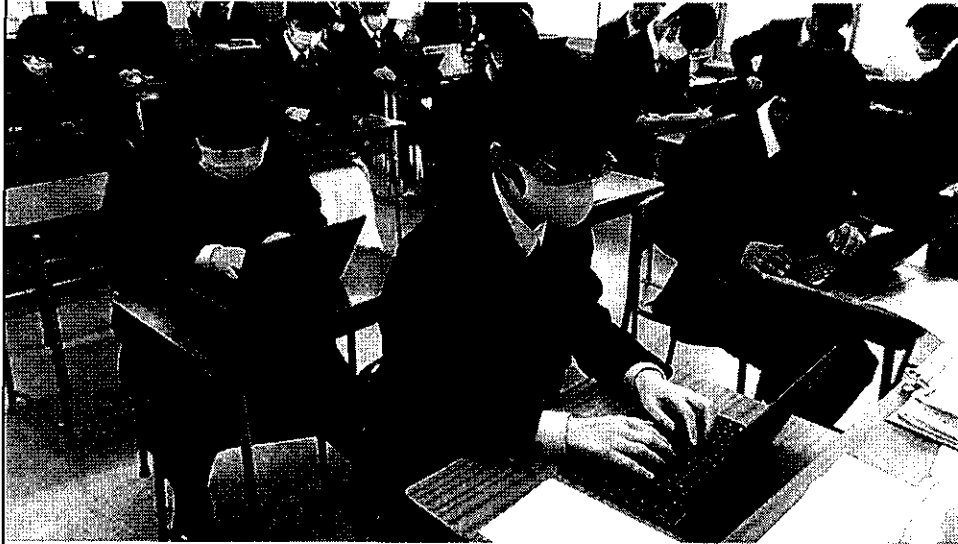


社会とつながる



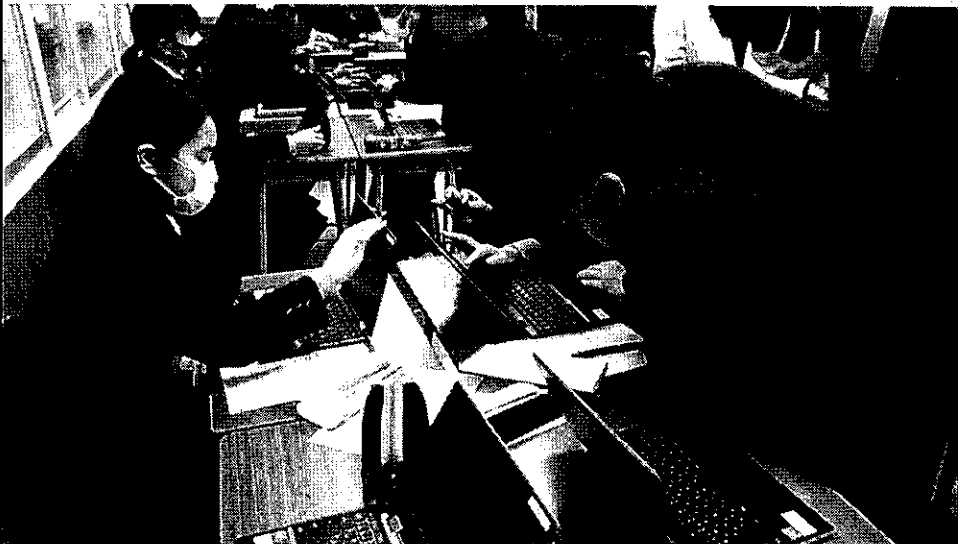
各教科の学びを活かし、
社会問題等の解決・一人一人の夢の実現

先行実践校における授業の様子



県立翔陽高等学校

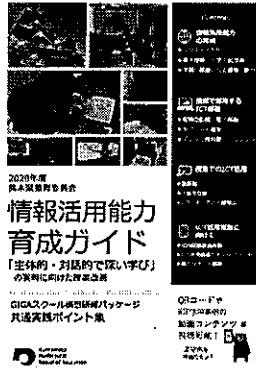
先行実践校における授業の様子



県立翔陽高等学校

ICT活用によるデメリット

△機器の操作で終始 ICT活用そのものが目的に・・・



研修ガイドで
留意点を整理

☑ 授業でのICT活用における留意点〔教師編〕

「ICT活用」そのものが目的になってませんか？

授業におけるICT活用は、場合によっては、逆効果になる場合もあります。以下のチェックリストで、ポイントを明確にした活用を心がけましょう。



Let's Check!

☑ 学習活動

- 授業者がスライドで一方向的に説明する授業で、子供の主体的な学びが妨げられる。
- 講義形式の授業で、子供が話し合ったりノートにまとめたりする時間が十分でない。
- 板書があるにもかかわらず学びのあとが整理されず、授業全体の振り返りができない。

☑ 提示資料

- 提示した資料が焦点化されておらず、子供がどこを見ればいいのか分からない。
- 文字や画像が小さく、教室の後ろからははっきり見えない。
- 提示するスライドの量が多く、次々に切り替わることで集中力が途切れてしまう。

☑ 授業でのICT活用における留意点〔児童生徒編〕

ICT活用は「目的」ではなく「手段」

授業で、子供にICT（特にタブレットPC）を活用させることは、主体的な学びが期待できる反面、学びの構えや学習規律が不十分な場合にはかえってマイナス要素となります。有効活用のために、ポイントチェックをしてみましょう。

☑ 学習活動

- ICT活用を取り入れた学習活動が、本時のねらいとつながっていない。
- ICTを使うだけで授業が開始し、学習活動が子供まかせになってしまう。
- 物珍しさからICT機器に興味がいってしまい、先生の指示を聞かない。
- 教科書やノートとの連携がとれておらず、学習内容の押さえが不十分となる。
- ICT環境整備が不十分で機器の不具合がでるなどして学習の流れが中断される。



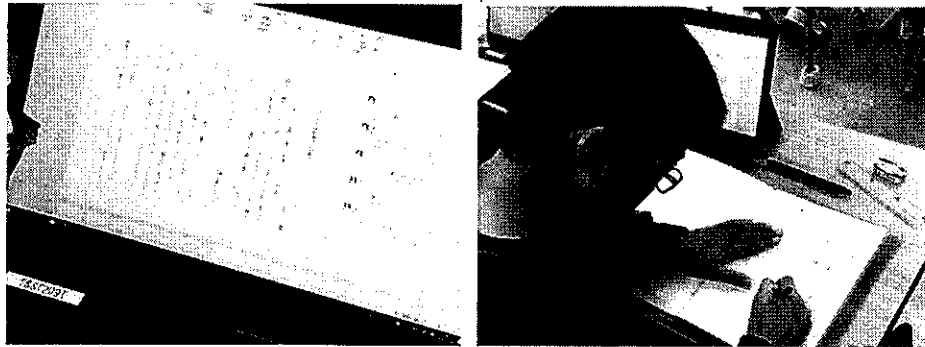
Point Check!

ICT支援員によるサポート



機器の準備・操作・授業でのICT活用などを補助

デジタルとアナログの良さを活かす

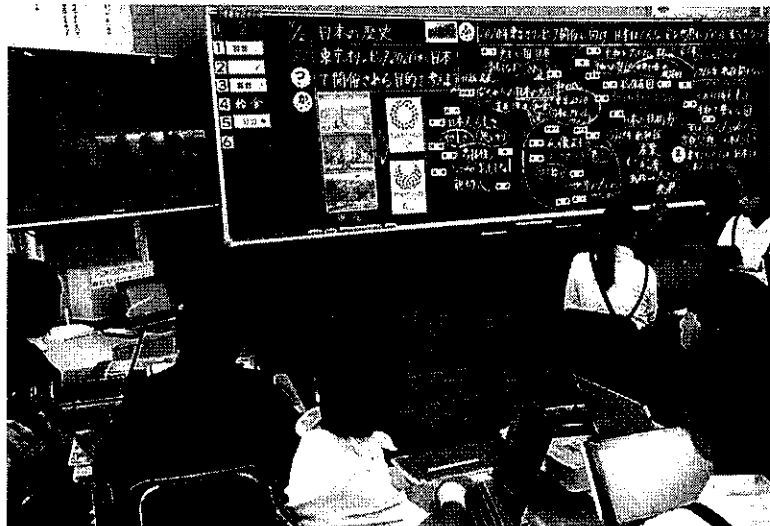


下書きは端末で試行錯誤

清書は手書きでていねいに

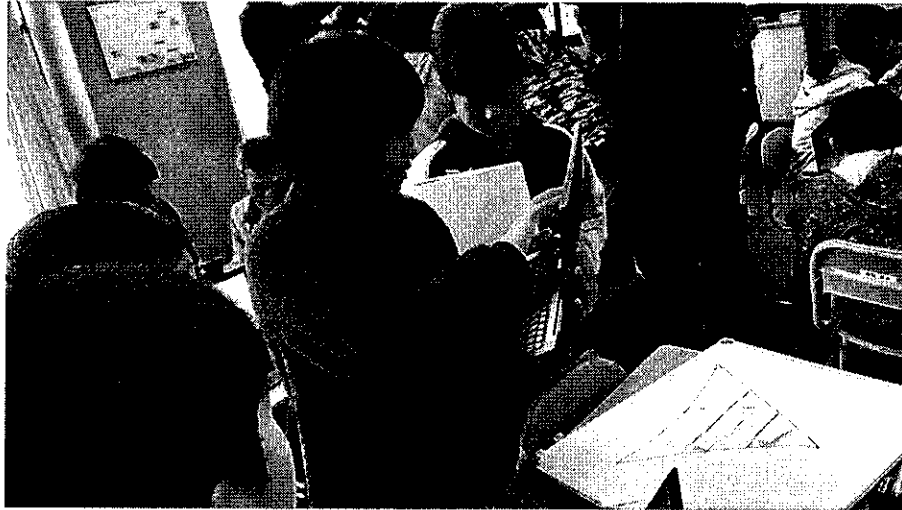
手書きでのノート作業は学習の基本
従来どおりに大切に指導

デジタルとアナログの良さを活かす



黒板も併用 授業の流れを分かりやすく示す

1人1台端末がもたらす新たな学び



鉛筆や辞書と同じように、情報端末も文房具へ

1人1台端末による新たな学び



～令和の日本型学校教育の構築の実現へ～